

株式会社 インターファーム 殿

【件名】土壌分析
ーリン酸測定ー



パリーノ・サーヴェイ株式会社
計量証明事業登録 群馬県 環 第17号
本社 東京都中央区日本橋本町1-10-5
電話 03(3241)4566(代)
研究所 群馬県藤岡市岡之郷字戸崎559-3
電話 0274(42)8129(代)

土壌研究室 中根 秀二

分析担当者 小畑 勝

分析試験報告書

平成25年1月4日 ご依頼を受けました試料の分析試験結果を下記のとおり報告致します。

記

【試料】	土壌 2点(依頼者持ち込み) 検体番号・試料名: No.1・・・西面 EL=64.5m Dr.pH35kg/m ³ 配合 No.2・・・西面 EL=64.5m Dr.pH液剤 12倍希釈液 3L/m ² 散布
【分析試験結果及び方法】	別表のとおり
【備考】	記載事項特になし

分析試験結果

分析項目	単位	検体番号・測定値		分析方法
		No.1	No.2	
①可給態リン酸 P ₂ O ₅ (pH3.0 0.002N硫酸液可溶性リン酸)	mg/kg*	1180	628	トルオーグ法「土壌環境分析法」
②可給態リン酸 P ₂ O ₅ (1:40水抽出の水溶性リン酸)	mg/kg* (mg/L)	267 (1.32)	63 (0.31)	水抽出法「土壌環境分析法」

【特記事項】

- 単位はSI単位を基本に表示。単位の*印は乾土あたり。
- ②可給態リン酸(1:40水抽出の水溶性リン酸)の()内の値は、抽出水中に含まれる土壌溶出したリン酸量を示す。

【結果コメント】

①可給態(弱酸可溶性)リン酸は、植物に利用されやすい形態のりん酸で、一般に100mg/kg以上含有されていることが望まれており、リン酸養分として両土壌とも十分な量が含有されている。
②可給態(水溶性)リン酸は、①可給態(弱酸可溶性)リン酸と同様に植物に利用されやすい形態のりん酸であるが、我国の土壌ではリン酸が水溶性で残存し続けることは少なく、逆に多く存在することは過剰を意味する。それは周辺水質環境への富栄養化原因ともなる。土壌中の水溶性リン酸の環境基準値は無いが、環境の排水基準としては燐含有量 PO₄16mg/L(P₂O₅11.96mg/L)がある。この基準値と②可給態(水溶性)リン酸の()内測定値No.1(1.32)、No.2(0.31)を比較すれば、両土壌とも周辺水質環境への富栄養化原因となる量は含有していないと考えられる。